

令和7年度 江戸川区立新堀小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	進んで考え 学び合う子 心ゆたかで 思いやりのある子 健康で たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	たのしい学校 あかるい児童 子 げんきな教師	た・・・体力づくりの あ・・・挨拶ができる子 げん・・・限界突破する教師	の・・・能力づくり か・・・感じる子 き・・・気づける教師	し・・・心情づくり 考える子 る・・・ルールを守る子	い・・・生き方づくり い・・・挑む(挑戦する)
前年度までの本校の現状	成果	・教育課程を「体力づくり、能力づくり、心情づくり」に分類し、教育活動を推進している。その継続により、教職員が課題意識をもって日常の教育活動に取り組んでいる姿勢を示すことができた。		課題	・保護者の方からの声に、「もっと話を聞いてもらいたい」というご意見をいただいた。学校として、管理職・教員共に、「もっと子どもたちの話を聞くこと」「もっと保護者の方の話を傾けること」が必要である。そのことが、学校経営方針である「ともにしあわせを感じる新堀の教育」を具現化するものとする。		

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	授業改善の推進 学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	新堀スタンダードの策定 朝学習を活用した読書、計算、漢字等の継続的な取組	新堀スタンダードの実施率100% 朝自習の実施(10分×週3×35週)	A	A	A	新堀スタンダード朝自習 実施できている 今後も継続していく	A	新堀スタンダードや朝自習等、今後も継続して欲しい。 学力調査を活用し、学力の底上げを図って欲しい。	A	・新堀スタンダードや朝学習の継続ができている。 ・江戸川区学力調査の結果(個人カルテ)をもとに苦手領域に取り組みせることができた。	A	・新堀スタンダードや朝学習を継続して欲しい。 ・江戸川区学力調査の結果(個人カルテ)を活用して学力向上に取り組んで欲しい。	・新堀スタンダードや朝学習を継続していく。 ・各学力調査の結果を学力向上に活用していく。
	家庭学習習慣の定着	全学年全学級における家庭学習の提出 保護者と連携・共有した学習課題の提示	家庭学習の定着度80%以上	B	A	B	10月下旬のスタディーウィークで家庭学習の提出80%を目指す。	B	学校や家庭での協力が大切である。テストの点数だけでなく、考え方や方法を重視して欲しい。	A	スタディーウィークを活用し、家庭への啓発を図ることができた。	A	・今後も、家庭への協力を呼びかけて行って欲しい。	・スタディーウィークを中心に家庭学習を呼びかけていく。
	読書科の更なる充実	探究的な学習を通じた、主体的に学ぶ資質・能力の育成	ホームページ等において「読書科」に関する取組を毎月公開	B	A	B	今後、読書科に関する取組をホームページに取り上げていく	B	ぜひ、たくさん本を読み、その様子を知らせて欲しい。	A	読書科コンクールに出品することが児童への意欲付けにつながった。中央図書館と連携し、蔵書点検や貸し出し数の把握に努めた。	A	・今後もたくさん本を読み、読書に触れるきっかけを増やして欲しい。	・読書家に関する取り組みを定期的に発信していく。
体力の向上	運動意欲や基礎体力の向上	運動の日常化・外遊び奨励 継続的な運動チャレンジ週間による運動時間の確保	年間を通じた新堀タイムの実施(15分×週1×35週以上)	A	A	A	縄跳びウィークを毎学期実施する。 新堀タイムは月1回している。	A	縄跳びウィーク等、とてもよい取組である。区のコンクールに応募すること、楽しみである。	A	・新堀タイムを活用し、外遊びの習慣を身に付けられた。 ・区の縄跳びコンクールに出品できた。	A	・区のコンクールで評価されてよかった。次年度も取り組んでほしい。	・新堀タイムや縄跳びウィークを活用し、児童が運動に親しむことができるようになる。
	食育の充実	年間計画を含む全体計画に基づく、正しい知識と望ましい食習慣の定着	指導計画の実施率100%	A	A	A	実施率100%を継続していく。	A	残菜率が低いことはとても素晴らしい。給食室の改修工事は給食のありがたみを感じられる事柄と思われる。	A	・改修工事が終わり、12月より給食が始まった。 ・温かい食事のありがたみを感じる児童が多く、残菜率も低い。	A	・今後も食育の充実に取り組んで欲しい。	・全体計画と年間指導計画を見直し、次年度も実態に合った食育を行っていく
	基本的な生活習慣の確立	教師の共通行動に基づいた生活指導の徹底	新堀スタンダード(生活編)の実施率100%	B	B	B	100%を目指し、指導中である。	B	100%を目指し、指導を継続して欲しい。	B	・継続指導中である。 ・集団生活を送る上で重視すべき生活習慣を身に付けさせる。	B	・新堀スタンダードの実施率100%を目指し、指導して欲しい。	・新堀スタンダード(生活編)の実施率100%を目指すために、共通実践していく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	特別支援教育の推進 個に応じた指導の実施・充実	個別の配慮や支援を必要とする児童の個別指導計画の作成 児童の居場所づくり	個別指導計画の作成率100%	A	A	A	個別指導計画100%作成できた。	A	個別の丁寧な指導を継続して欲しい。	A	・支援を必要とする児童の保護者と連携をとり、指導の支援シートを100%作成した。 ・エンカレッジルームを必要とする児童への対応を100%している。	A	・今後も個別の支援が必要な児童に丁寧な指導を継続して欲しい。	・児童の実態に合った個別指導計画を作成し、実践していく。
	共同学習の実施・充実	地域交流及び共同作業など、社会の教育力を生かした教育活動の実施	交流活動の実施率100%	B	B	B	10月以降に地域保育園との交流学習が予定されている。実施に向けて計画中である。	B	今後も様々な交流ができるとよい。	B	・1年生が地域保育園(2園)と交流した。 ・サツキのさし芽体験を通じた「命の授業」で、自国の文化と他国の文化の良さについて考える機会を設けることができた。	B	・今後も地域の教育力を活用し、様々な交流を実施して欲しい。	・計画的に学年の実態に合った、共同学習を実施していく。
不登校の対応 不登校の充実 いじめ対策	不登校児童に対する個々の社会的自立への支援	多様な居場所づくり(個別のニーズに応じた支援) スクールソーシャルワーカーとの連携	30日以上欠席児童の社会的自立に向けた支援を100%実施	A	A	A	欠席数が多い児童は教育相談や共育プラザなどともつながっている。	A	様々な機関との連携の必要性を感じる。	A	・不登校児童の状況調査、情報共有、保護者との連絡を毎月2回以上実施している。 ・スクールソーシャルワーカーとの連携方法を再検討する必要がある。	A	・児童の実態にあった支援を考え、様々な機関と連携して欲しい。	・児童の実態に合った、支援の方法を確立する。 ・スクールソーシャルワーカーと連携を密にしていきたい。
	新堀小学校いじめ防止対策基本方針に基づく指導の徹底	いじめの未然防止・早期発見・早期対応 いじめは絶対に許されないという認識の確実な定着	児童(保護者)からの相談対応100% いじめはダメと回答する児童100%	A	A	A	児童や保護者からの相談対応100%実施できている。 いじめはいけないうことであると回答する児童100%	A	これからも生活指導を徹底し、判断する力を育てて欲しい。 スクールのロイヤーや弁護士を活用について知りたい。	A	・毎日、L-GATEを活用した児童の実態把握を継続している。 ・要支援・要配慮児童への聞き取りや面談を100%実施した。	A	・今後も、いじめの未然防止と早期発見、早期対応を徹底して欲しい。	・L-GATEを活用し、児童の実態把握を継続していく。
学校(園)の実現 地域社会に開かれた	自校の取組の積極的な発信	ホームページを活用した、教育活動の公開 学校公開の積極的な実施	学校ホームページを毎週2回以上更新 学校公開を年間6回以上実施	A	A	A	ホームページの更新を毎日することができている。 学校公開を計画通り実施できている。	A	新堀小はイベントが多いと思う。学校が開かれているのはとてもよい。今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。	A	・ホームページの更新を毎日することができた。 ・学校公開を計画通り実施できた。	A	・今後も地域とのつながりを大切にしたい。	・学校ホームページの更新を積極的に行っていく。
	学校関係者評価の充実	学校評価の効率化・適正化 学校ホームページによる学校関係者評価の公表	学校評議員委員会を年間3回以上実施 関係者評価を年間2回実施	A	A	A	予定通り実施できている。	A	実施できていてよい。	A	・学校評議員委員会を年間3回以上実施できた。 ・関係者評価を年間2回実施できた。	A	・学校評議員と学校関係者評価を今後も行ってほしい。	・今後も、年間を通して計画的に実施していく。
教育の特色 教育の展開	本物の素晴らしさを実感する体験活動の充実	実物を見る・触る、人から聞く、実際にやってみるといった体験学習の実施 外部講師を活用した授業	各学年1回以上、外部講師を招いた授業の実施	A	A	A	外部講師を招いた授業が各学年で実施できている。ポッチャやフラインドサッカーの体験を他学年で行った。	A	デフリンピック観戦など、本物を見る機会があるのはとても素晴らしい。	A	外部講師を活用した授業を各学年で実施できた。	A	・外部講師を積極的に活用してきたことはとてもよかった。	・年間を見通して、計画的に実施していく。
	特別活動の推進	たてわり班活動の充実 異学年の縦割りの班活動を通じた、計画する力や実行する力の育成	異学年の縦割りの班活動を年間10回の実施	A	A	A	予定通り実施できている。10月には全校遠足を実施予定。高学年の活躍の場を広げ、実行する力を今後も育成していく。	A	縦割りの班で遠足に行ったこと、とてもよい経験になったと思う。たくさんの異学年交流活動を通して仲間を増やして欲しい。	A	縦割りの班を活用し、全校遠足を実施できた。また、年間を通して縦割りの班の読み語りや遊びを実施できた。	A	・異学年で交流することは、とてもよいと思う。今後も継続して欲しい。	・無理のない範囲で、年間を通して計画的に実施していく。